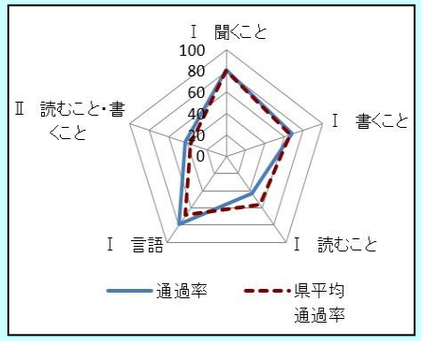
指導方法等の改善計画について　〔国語科〕

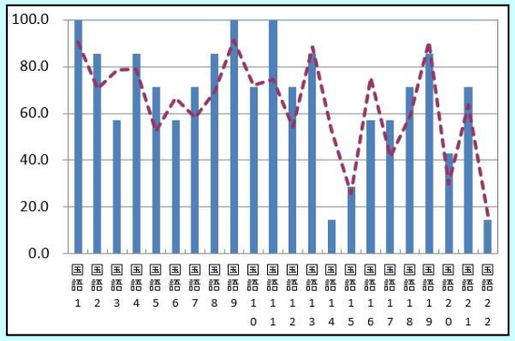
神石高原町立来見小学校

「基礎･基本」定着状況調査　本年度通過率　（本校　67．5%，県 63．7%）

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

領域別ではタイプⅠの伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項においては概ね良い結果であるが，タイプⅠ・Ⅱ読むこと，書くことに課題が見られる。特に段落相互の関係の把握や情報の取り出し・情報を関連付けての理由の記述や事例を挙げた記述に課題がある。

○昨年度への課題の取組の成果

昨年度は，書くことに課題が見られた。そこで，教科書の文を使って，段落のまとまりごとに内容を大きくつかみ，文の構成を捉える力をつけるとともに，文を書かせる時，語と語の続き方に気を付けさせるとともに段落の使い方の指導を重点的に行った。その結果，語と語の続き方については気を付けて文を書くことについてはできるようになった。

重点課題

【課題１】段落相互の関係を把握する問題に課題がある。
「五段落の後」と正答している児童は，１４.３％であった。

【課題２】情報の取り出し・理由や事柄を挙げた記述の問題に課題がある。
「２つの条件を満たし，文として論理的につながった２文」を書いて正答している児童は，１４.３％であった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題１】　説明的な文章では，段落相互の関係を把握する手立てとして「つなぎ言葉」がある。本問題においても「では」「つまり」「また」等のつなぎ言葉が使われている。また，挿入段落の「その他にも」は，関連する内容が前段落に示されていることを予想させる。したがって，「つなぎ言葉」の役割をより意識した指導（段落を入れ替えた文章の提示など）を行うことで，段落相互の関係を把握できるようにしていく。さらに，学年実態に応じて，「頭括型」「尾括型」等の文章構成を意識した指導もしていく。また，授業の中で根拠を明らかにした発言をするよう指導する。

【課題２】　無解答が２８.６％，途中までの解答が１４.３％と，時間内に回答することができていなかった。したがって，時間を意識させながら，速読の指導をしていく。そして，解答する際の注意点として「３文で構成すること。」「つなぎ言葉に続くように書くこと」の２点があげられており，低学年から「文と文との続き方」の指導を継続するとともに，「つなぎ言葉の役割」「段落相互の関係」「常体と敬体」等についても意識させながら作文等の指導をしていく。

【課題１】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		５年生 H28 基礎基本より小テスト	４年生 復習テスト	５年 H28　全国学テ A 問題	全学年 標準学力調査	４年生 H28 基礎基本テスト	全学年 学年末テスト
目標値		７０%以上	６０%以上	７０%以上	全国平均を上回る児童 ７０%以上	６０%以上	８０%以上
実施後数値							

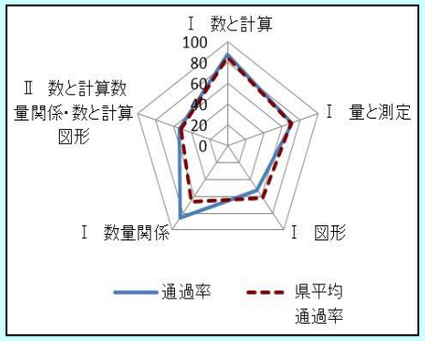
【課題２】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		５年生 H28 基礎基本より小テスト	４年生 復習テスト	５年 H28　全国学テ A 問題	全学年 標準学力調査	４年生 H28 基礎基本テスト	全学年 学年末テスト
目標値		７０%以上	６０%以上	７０%以上	全国平均を上回る児童 ７０%以上	６０%以上	８０%以上
実施後数値							

指導方法等の改善計画について　〔算数科〕

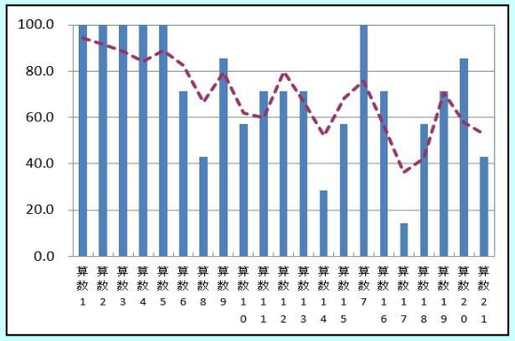
神石高原町立小学校

「基礎･基本」定着状況調査　本年度通過率　（本校　71．4%, 県　69．4%）

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

全体的に見ると，タイプⅠ数と計算や数量関係では概ね良い結果だったが，タイプⅡの数と計算・数量関係で，目的に応じた計算結果の見積もりなどに課題が見られた。また，タイプⅠの図形で「ひし形の判断」の問題で課題があった。

○昨年度への課題の取組の成果

昨年度は，タイプⅡの数と計算・数量関係の領域で，棒グラフと折れ線グラフを読みとる問題に課題があった。目的に応じて資料を分類整理し，伴って変わる２つの数量の関係をグラフを見て変化の様子や特徴を言葉や文で表させるように指導した。その結果，タイプⅡ数と計算・数量関係の領域での通過率が昨年度は１２．５%だったが，本年度は５７．５%になった。

重点課題

【課題１】ひし形の特徴を問う問題に課題がある。

「４つの辺の長さがすべて等しい」と正答している児童は，２８.６%であった。

【課題２】目的に応じた計算結果の見積もりの問題に課題がある。

目標に達しているかどうかを調べるために，「切り上げる」と正答している児童は１４.３%であった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題１】　図形の学習は，２年生で三角形・四角形（正方形・長方形）など，３年生で二等辺三角形・正三角形・円・球など，４年生で平行四辺形・ひし形・台形など，高学年では多角形・合同・縮図や拡大図などを中心に学習をする。その際，図形の定義や性質を意識させながら，描いたり切ったり比べたりする操作活動を充実させると共に友達との意見交流を通して，図形の特徴をしっかりと把握するように指導していく。

【課題２】　各学年においても，計算の仕方を考えたり確かめをしたりする場合には，計算の見積もりを生かすことが大切である。また，計算結果の見積もりは，日常生活（買えるか買えないかなどの場面）においても多く用いられる。したがって，各学年において加法・減法等を指導する際にはこれらのことを踏まえながら指導していく。また，４年生では「およその数」の学習をするが，概数を用いる場合どういった場面で「四捨五入」「切り上げ」「切り下げ」を行うかの考えさせながら指導していく。

【課題１】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		５年生 H28 基礎基本より小テスト	４年生 復習テスト	５年 H28 全国学テ A 問題	全学年 標準学力調査	４年生 H28 基礎基本テスト	全学年 学年末テスト
目標値		７０%以上	６０%以上	７０%以上	全国平均を上回る児童 ７０%以上	６０%以上	８０%以上
実施後数値							

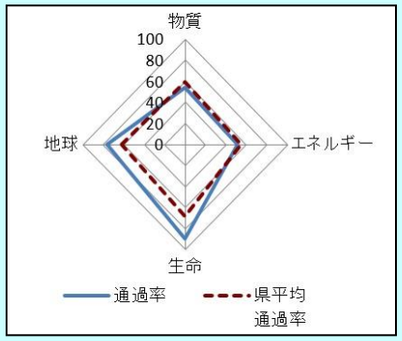
【課題２】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		５年生 H28 基礎基本より小テスト	４年生 復習テスト	５年 H28 全国学テ A 問題	全学年 標準学力調査	４年生 H28 基礎基本テスト	全学年 学年末テスト
目標値		７０%以上	６０%以上	７０%以上	全国平均を上回る児童 ７０%以上	６０%以上	８０%以上
実施後数値							

指導方法等の改善計画について　〔理科〕

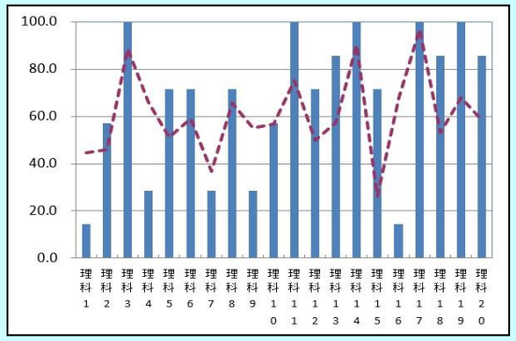
神石高原町立来見小学校

「基礎･基本」定着状況調査　本年度通過率　（本校　67．1%，県 60．6%）

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

生命はタイプⅠ・Ⅱともに良好な結果であるが，物質や地球はタイプⅠ，エネルギーはタイプⅠ・Ⅱで課題が見られた。

○昨年度への課題の取組の成果

昨年度は，生命のタイプⅡの昆虫の体のつくりについて説明する問題に課題が見られた。昆虫や植物などの観察を行い，分かった事を絵や文に正確に表現させ，特徴をつかませる指導を行った。その結果，昨年度は「昆虫の体」についての問題の通過率は１２．５%だったが，本年度は１００%に改善した。

重点課題

【課題１】物の重さのはかりかたの問題に課題がある。

・「いろいろな種類の物の重さを比べるには（　　）をそろえる。」で，正答している児童は１４.３%であった。

【課題２】地面の温度の正しいはかり方の問題に課題がある。

・「えきだめに土を少しかぶせ，温度計に直接に当たらないようにしてはかる。」と正答している児童は，１４.３%であった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題１】　学習指導要領　A 物質・エネルギー（1）物と重さ　イ「物は，体積が同じでも重さは違うことあること。」の内容である。解説にも「・・・体積が同じで物によって重さが違うことをとらえるようにする。」とある。しかし，（大きさ）と回答した児童はいたが，（体積）と回答している児童はいなかった。授業の中で課題発見解決学習のサイクルを活かしながら，理科の学習で使用する重要な用語をしっかりとおさえ，学習内容と関連付けながら指導していく。

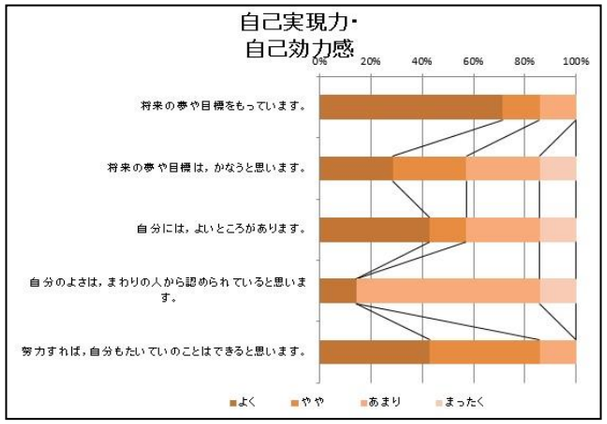
【課題２】　学習指導要領　B 生命・地球（3）太陽と地面の様子　イ「・・・日なたと日陰の地面の暖かさを調べる活動については，・・・温度計を用いて地面の温度を測定し，比較できるようにする。（解説）」の内容である。本内容においては「温度計」「遮光版」「方位磁針」等を使用するが，他の内容においても，観察・実験器具の正しい（安全な）使用方法について，実際に操作させながら指導していく機会を多くもつようにする

【課題１】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		５年生 H28 基礎基本より小テスト	４年生 復習テスト	５年 H28 全国学テ A 問題	全学年 標準学力調査	４年生 H28 基礎基本テスト	全学年 学年末テスト
目標値		７０%以上	６０%以上	７０%以上	全国平均を上回る児童 ７０%以上	６０%以上	８０%以上
実施後数値							

【課題２】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		５年生 H28 基礎基本より小テスト	４年生 復習テスト	５年 H28 全国学テ A 問題	全学年 標準学力調査	４年生 H28 基礎基本テスト	全学年 学年末テスト
目標値		７０%以上	６０%以上	７０%以上	全国平均を上回る児童 ７０%以上	６０%以上	８０%以上
実施後数値							

質問紙調査　（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

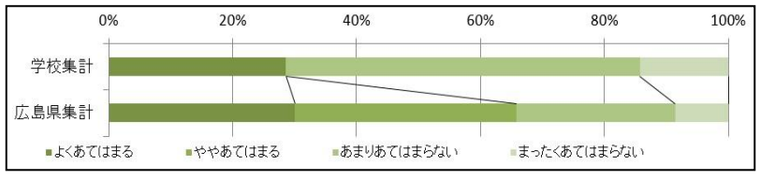
（１）生活・学習



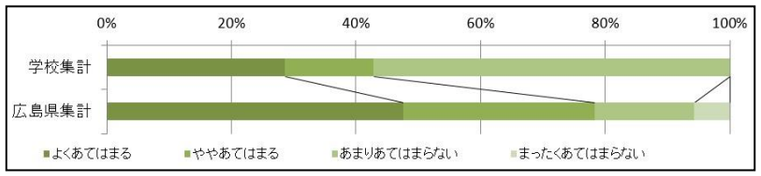
児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
「自分のよさは，まわりの人から認められていると思います。」という質問内容で，肯定的な回答をしている児童の割合は，１４.３％であった。	「授業」はもちろん「帰りの会」やいろいろな「集会活動」等において，振り返りの場を設け，自分や友達の良かったところを評価し合うように活動を仕組む。	全校	「肯定的な評価をする児童の割合を６０％以上にする。	児童アンケート	１２月 ２月		

（２）教科

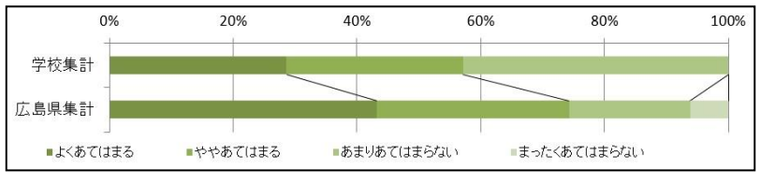
国語の授業の中で，学んだことの振り返りをしています。



算数の授業で学んだことを，ふだんの生活で使ったり，学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



理科の授業で学んだことを，ふだんの生活で使ったり，学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
国語	「国語の授業の中で，学んだことの振り返りをしています。」という質問内容で，肯定的な回答をしている児童の割合は，２８.６％であった。	国語の授業の中で，本時の学習で分かったこと」「参考になった友達の意見などを，発表させたり書かせたりさせる。	２年以上	「肯定的な評価をする児童の割合を７０％以上にする。	児童アンケート	１２月 ２月		
算数	「算数の授業で学んだことを，ふだんの生活で使ったり，学んだことがどのような場面で使えるか考えたりしています。」の質問内容で，肯定的な回答をしている児童の割合は，４２.９％であった。	児童の生活に関連した，必然性のある「単元課題」を単元のはじめに提示したり，単元の終わりには，その単元で学習した知識や技能等を使って単元課題を解決させたりすることで，授業とふだんの生活のとの関連を図る。	２年以上	「肯定的な評価をする児童の割合を８０％以上にする。	児童アンケート	１２月 ２月		
理科	「理科の授業で学んだことを，ふだんの生活で使ったり，学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。」の質問内容で，肯定的な回答をしている児童の割合は，５７.１％であった。	単元の終わりには，「理科の授業で学んだことを，ふだんの生活で使ったり，学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりする」振り返りの場を設ける。	３年以上	「肯定的な評価をする児童の割合を８０％以上にする。	児童アンケート	１２月 ２月		